

令和5年度 自己評価計画書

重点目標	具体的取組	担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
1 国際社会に貢献する人材の育成を主眼として、高い志を掲げ、その実現に向け主体的に努力でき、難関国公立大学等の大学に果敢にチャレンジする生徒を育てる。	① GIGAスクール構想に基づくICT機器の活用等を通じて、生徒の思考力、判断力、問題解決能力、表現力の育成を目指す。	教務課 全教員	昨年度後期授業評価において、5項目におけるA評価の平均は54.1%であった。内訳は、「ねらい」55.2%、「熱意や工夫」60.7%、「説明や指示」53.6%、「考えさせる場面」59.5%、「興味・関心」41.4%である。	【努力指標】 全教員の授業評価において、左記項目のA評価を増やす。	授業評価において、「授業のねらい」「教員の熱意や工夫」「説明や指示」「考えさせる場面」「興味・関心が高まる」の5項目におけるA評価の平均が A 55%以上 B 50%以上 C 45%以上 D 45%未満	Dの場合、改善策を検討する。	授業評価で調査する。
	② 授業や総合的な探究の時間等の活動を通して、生徒が主体的に課題解決に取り組む姿勢を育む。	進路指導 NSH推進 教務 学年	昨年度後期学校評価において、3教科の肯定的な回答の平均は、66.7%（英語64%、数学77%、国語59%）であった。 1・2年生のうちに主体的な学習について考え、積極的に学習に取り組む姿勢を身につけることにより、基本的な学習や弱点克服、また得意分野を伸ばす発展的な学習に取り組ませていきたい。	【成果指標】 生徒が自らの進路実現のためにどのよ うな力が必要かを考え、主体的に学習 を進めている。	自らの学習について (ア)授業や課題以外に積極的に取り組み、独自の学習にも取り組んでいる。 (イ)授業や課題に積極的に取り組んでいる。 (ウ)授業や課題には取り組むが、自らを高めようとする努力や意識が足りない。 (エ)その場しのぎの学習が多く、極端に悪い成績を取らないように勉強している。 (ア)+(イ)の合計が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価(生徒)等で調査する。
			家庭学習時間調査において、昨年度1月現在、1・2年生で1日の目標学習時間(1年2時間以上、2年2.5時間以上)に達している生徒は1年57.1%、2年46.4%)であった。 課題を適正な量でより内容の濃いものに見直すことはもちろん、主体的に家庭学習に取り組ませるためにも興味・関心を高める授業改善を進めていきたい。	【成果指標】 家庭学習時間が学年の目標値(1年2時間、2年2.5時間)に達している。	家庭学習時間が学年の目標値に達している1・2年生のそれぞれの割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	Dの場合、改善策を検討する。	家庭学習時間調査により集計する。
	③ 国際社会において必要不可欠な英語によるコミュニケーション能力を身に付けようとする態度を育成する。	NSH推進 外国語科	英語による実践的コミュニケーション能力の育成を図り、定着度の指標としてGTECを定期的に受検している。また大学入試で、GTEC-CBTを活用する生徒が増加傾向にある。 2年次12月のGTEC(検定版)の結果は、A2.2以上278人(85.8%)であった。1年次12月に受けた時から比べると、どの分野でも伸びており、能動的に学習しようとする姿勢が備わってきている。	【成果指標】 生徒の英語による実践的コミュニケーション能力が順調に伸長している。	2年次12月に受検するGTEC検定版において、CEFR-Jの基準で、A2.2以上の成績を収めた生徒の割合が、 A 70%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満	Dの場合、改善策を検討する。	12月のGTECの結果で集計する。
④ 高い志を持って進路目標の実現に向かう生徒を育て、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。	進路指導 教務 学年 教科	令和5年度入試の合格者数は、難関大学15名、金沢大学64名、国公立大学235名、現役合格率は60.9%であった。難関大学現役合格者数は13名で合格者が3名増加した。金大については現役生、浪人生ともに増加した。この結果、イ・ウの2項目で基準を上回った。ウについてはここ5年間200名以上を達成しており、今年度は220名以上を成果指標とする。	【成果指標】 ア 難関大学合格者数 20名以上 イ 金沢大学合格者数 60名以上 ウ 国公立大学合格者数 220名以上	合格者数が A ア・イ・ウの3指標すべてを達成 B ア・イ・ウのうち、2指標を達成 C ア・イ・ウのうち、1指標を達成 D ア・イ・ウの3指標とも達成できず	Dの場合、進学指導体制を見直し、改善策を検討する。	合格実績で集計する。	

令和5年度 自己評価計画書

重点目標	具体的取組	担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
	⑤ 「進学校における部活動」を追求し、学校として生徒が学習と部活動を両立できるよう配慮し、かつ指導を徹底している。	生徒指導 学年 各部顧問	<p>昨年度後期学校評価において、効果的・効率的な部活動・学習への取組については、80%の生徒が(ア)と(イ)に答えている。より効率的・効果的な部活動を目指したい。</p> <p>下校時間の遵守については、昨年度後期学校評価において、90%の生徒が(ア)と(イ)に答えている。</p> <p>各部活動顧問の指導により部活動後は速やかに下校できている。下校時間の遵守が「文武両道の実践」と「進学校における部活動の追求」として重要な項目であることから、今後もさらに徹底していきたい。</p>	<p>【努力指標】 限られた時間の中で効率的・効果的な部活動を行い、学習においても効率的・効果的にできる工夫をする。</p> <p>【成果指標】 下校時間を遵守させることによって、学習時間の確保とけじめある学校生活を徹底していきたい。</p>	<p>限られた時間の中で効率的・効果的な活動に取り組んでいる部活動が (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p> <p>下校時間を遵守している生徒が (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満</p>	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価等で調査する。
2 校訓「質実剛健」を不易のものとし、挨拶や感謝の心、規範意識やいじめを許さない姿勢などとしての基本を身に付けた、心身ともにたくましい生徒を育てる。	① 登下校指導、街頭指導、挨拶運動を通して規範意識を向上させる。	生徒指導 総務	<p>昨年度後期学校評価において、積極的に挨拶をしていることについては、(ア)と(イ)に答えた生徒は83%である。生徒自身は挨拶をしている認識はある。</p> <p>挨拶による元気で活力ある学校づくりを目指していきたい。</p> <p>昨年度後期学校評価において、きちんとした頭髪、服装をしていることについては、昨年度後期学校評価において、(ア)と答えた生徒は57%、保護者は41%となり、その平均は49%であった。</p> <p>きちんとした頭髪・服装を心掛けている生徒が多い中、実践できていない生徒が一部見受けられる。生徒の変化に気付き、教職員全員が共通理解をもって指導していきたい。</p>	【成果指標】 あいさつにより元気で活力ある学校づくりと品位ある頭髪・服装を目指して指導する。	<p>・積極的に挨拶をしていることについて (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p> <p>・きちんとした頭髪、服装をしていることについて (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満</p>	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価等で調査する。
	② 交通安全教室、自転車マナー・ルール検定、街頭指導等を通して交通ルール遵守の指導を行う。	生徒指導 総務	昨年度後期学校評価において、(ア)と答えた生徒は58%となっている。	【成果指標】 命にかかわることであるため、交通事故0件を目指して、交通ルールを遵守する取組や指導を行う。	生徒は自転車に乗車する際、交通ルールを (ア)いつも守っている (イ)だいたい守っている (ウ)あまり守っていない (エ)ほとんど守っていない (ア)が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価等で調査する。

令和5年度 自己評価計画書

石川県立金沢桜丘高等学校

重点目標	具体的取組	担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
	③ 各課や学年が連携を密にすることによって、生徒の悩み(学習・人間関係・部活動など)が深刻化し、不登校にならないように、相談しやすい環境を整える。	相談 生徒指導 保健 学年	(生徒用) 昨年度後期学校評価において、「桜丘高校は学習における悩みや人間関係(いじめ等)に関する悩みを相談しやすい」という質問項目に対して、「ア:よくあてはまる 22%」「イ:あてはまる 34%」の合計が56%で目標の70%に達成していない。これらの生徒は学校で相談をしたことがないと考えられるので、悩みが生じた際にはいつでも相談できる雰囲気作りが必要である。  (教員用) 「ア:よくあてはまる 47%」であり目標数値を大きく下回っている。	【成果指標】 (生徒用) 生徒が悩み(学習・人間関係・いじめ・部活動・健康状態など)を相談しやすい。 (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (オ)わからない (ア)+(イ)が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満  (教員用) 相談課と各課・学年・関係委員会とが連携し、悩みがある生徒の早期発見と対策がとられている。 (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (オ)わからない (ア)が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	(生徒用) 本校は悩み(学習・人間関係・いじめ・部活動・健康状態など)を相談しやすい。 (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (オ)わからない (ア)+(イ)が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満  (教員用) 相談課と各課・学年・関係委員会とが連携し、悩みがある生徒の早期発見と対策がとられている。 (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (オ)わからない (ア)が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	Dの場合、改善策を検討する。	(生徒用) 学校評価(生徒)で調査する。  (教員用) 学校評価(教員)で調査する。
	④ 面談等を通して、生徒が主体的に自分の生活や時間の使い方を振り返る、自律の態度を育成する。	生徒指導 学年	昨年度後期学校評価において、「スマートフォンの使用時間が1日1時間以内」と答えた生徒は57%である。 スマートフォンの使用は、毎朝の体調チェックの報告などを含め、多岐にわたる連絡ツールとして使用されているため、生徒にとって身近なものである。しかし、使用上のモラルの問題や学習活動の弊害にも関わっているため、進学校としての使用方法を実践させたい。	【成果指標】 スマートフォンについては学年集会や担任による面談等で生徒に働きかけ、学習に効果的な使い方などに工夫できるよう自律の態度を育成する。	学習以外でのスマートフォンの使用時間が1日1時間以内であるという生徒が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価等で調査する。
	⑤ 幅広い読書を意欲的に行うことで思考と情操を深め、自らの人格形成に活かす生徒の育成を図る。	図書 学年	令和4年度は、6・9・2月の各1ヶ月間の1冊以上読んだ生徒の割合を平均した数値は34.3%(令和3年度は31.4%)であった。	【成果指標】 1ヶ月に1冊も本を読まない生徒を減らし、進んで読書に親しむ姿勢を身につけさせる。	1ヶ月間に1冊以上本を読んだ生徒の割合が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	Dの場合、改善策を検討する。	読書量調査アンケートにより集計する。
3	① 校長が示すビジョンとリーダーシップのもと、全教職員が組織的に協力しながら学校運営がなされている。	全教職員	昨年度後期学校評価において、(ア)は26%であった。 新教育課程に伴う観点別評価の策定、GIGAスクール構想に対応した授業改善およびコロナ禍で増加した不登校生徒への対応をはじめとする生徒指導など業務に偏りが生じた。 全教職員が組織的に協力し、業務の平準化、課題の解決等を図っていく。	【努力指標】 教職員の共通理解のもと副主任の役割を明確化し、業務の平準化を促進させ、より組織的な学校運営を進める。	業務の平準化に向けた取り組みがなされ、組織的な学校運営が進められている。 (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)が A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価(教員)で調査する。

令和5年度 自己評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
	② 校内研修会をより充実させ、今日的教育課題の理解とそれに対応する教員の資質を高めるとともに、若手教員早期育成プログラムを計画的に実施する。	教務 進路指導 保健 相談	昨年度後期学校評価において、(ア)が21%(前期27%)、(イ)が74%(前期67%)であった。教科ごとのGIGA研修や自動採点システムの活用研修等で成果があった。日々の教育活動に役立つ内容の研修を行っていきたい。	【満足度指標】 研修に取り組むことにより専門性と指導力が高まり、さらに、若手教員早期育成プログラムの計画的な実施により、以後の教育活動に役立てることができたと感じられる。	取り組んだ研修の成果を教育活動の充実に役立てることができた。 (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)が A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価(教員)で調査する。
	③ 部活動の活性化を通して、生徒が誠実に学校生活に取り組むとともに、自主性や自立心の育成を図る。	生徒指導 各部顧問	昨年度の部活動の加入状況は90.2%、運動部は63.5%、文化部は26.7%で4年ぶりの90%台であった。部活動の加入状況は一昨年度より増加しており、学校全体として文武両道を目指す生徒の姿勢がみられる。	【成果指標】 部活動の活性化を通して、文武両道を実践する中で、生徒の自主的な取り組みと自立心の育成を目指したい。	部活動に加入している生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	Dの場合、改善策を検討する。	部活動加入状況を集計する。
	④ 本校の教育活動に参加する保護者、地域の方々及び同窓生(保護者等)を増やすことによって、生徒の活動の様子を直に見てもらい、家庭及び地域と学校との連携を更に深める。	総務 教務 生徒指導 学年 情報	保護者の延べ人数は2,785名であった。内訳は入学式561名、PTA総会257名、進路説明会600名(1年300名、2年194名、3年106名)、3S歩行438名、学校公開92名、中学校PTA来校283名、卒業式554名であった。感染症対策を講じて可能な限り行事等を実施した結果、昨年度(1419名)より増加した。今後、来校できない方々へのオンラインでの情報提供なども引き続き必要となるが、多くの方々に来ていただくよう各課・学年等と連携して取り組んでいきたい。	【成果指標】 保護者等が生徒及び学校への理解を深めるため、学校が企画する行事に積極的に参加する。	本年度、下記の本校学校行事に参加した保護者の延べ人数が A 4500名以上 B 4300名以上 C 4000名以上 D 4000名未満  行事:PTA総会、桜高祭、学校公開、進路説明会、3S歩行、入学式、卒業式、学校訪問(中学校PTA)	Dの場合、学校行事の内容やPR方法を検討する。	各学校行事の際の来校者実績で集計する。
			昨年度の本校ホームページへのアクセス数は354,109件(前年度345,385件)であった。	【成果指標】 本校ホームページをこまめに更新し、アクセス数を増やす。	年間を通じての本校ホームページへのアクセス数が A 40万件以上 B 35万件以上 C 30万件以上 D 30万件未満	Dの場合、改善策を検討する。	アクセスの実績で集計する。
4 組織運営・教職員の働き方の改善に対する意識を高め、時間外勤務時間の縮減に努め、より効果的な教育活動を実践する。	① 業務を細部まで見直し、会議や組織の運営、業務遂行の効率化、教職員の意識改革を進めることによりワークライフバランスを図り、教育活動の充実に努める。	管理職 全教職員	昨年度後期学校評価において、(ア)+(イ)の合計は59%(ア:15%、イ:44%)であった。高い目標を掲げ文武両道を推進する中で、教職員に求められる業務が多種多様であり、量的な負担も大きい。組織運営・教職員の働き方の改善に対する意識を高め、より効果的な教育活動を実践する必要がある。	【努力指標】 ワークライフバランスを意識して、生徒に対する時間を確保し、定時退校ウィーク、部活動休養日等を設けることにより、時間外勤務時間の縮減に努める。	時間外勤務時間の縮減に努めることができた。 (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価(教員)で調査する。